



趣味のオーディオ探求 旬の音本舗
FUKUDAYA
福田屋



主人 福田雅光



自作したセパレーターの音質はどうか?

※85頁 **SP用端末端子の研究とバイワイヤリング・セパレーターの試作**

本誌前号にて、切り売りスピーカーケーブル 30 モデルの一斉比較レポートが掲載されたが、福田屋も”端末”アドバイスとして、Yラグとバナナプラグについて触れた。そこで今回は、最新のYラグとバナナプラグのテストを行い最新の製品はどのような傾向なのかを確認した。そしてもう1つは、本誌170号(2020年冬号)にて紹介はしたが、未完成だったバイワイヤリング・セパレーターを試作。その音はいかに……。

改めてバイワイヤリング・セパレーターの試作に挑戦。バイワイヤリングセパレーターは、本誌170号(2020年11月)の福田屋で発表したが、その時は完成しなかった。これは何に使うものなのか。バイワイヤリング入力端子を持つスピーカーに、シングルワイヤーで理想的に接続するためのものだ。普通はジャンパー用のケーブルやブレットを付属しているため、シングルケーブルでも簡単に接続可能だが、これでは感度低下に接続



①ケーブルの絶縁を剥く作業



②ケーブルはシアフトンのSC-HR1500を2cmにかっこしたもの。日本車業。スピーカー端子端にR2Yラグとバナナプラグは、フルテックのCF-201 (R) とCF-202 (R) を用いた



③製作済みのバイワイヤリング・セパレーター



④絶縁をいたケーブルにターミナルを取りつけているところ



⑤むき露わったところは、マイクロファイバークロスでしっかりと拭き上げる



⑥カットしたところをノブで押し込みながら、信じて向きを揃えている



完成したバイワイヤリング・セパレーター。果たしてどのような音がするのか……

すると高域の解像度が有利になり、また低域側に接続すると低域が有利になったり変化が発生する。そこでスピーカーの近くで、低域と高域入力へ均等分配して接続させるために検討したのが、バイ

ワイヤリング・セパレーターである。ケーブルの比較試聴など、シングルワイヤードで接続する機会が多い場合に、どうしても必要であり、完成品も発売されていない。実はこの方法について、現在の

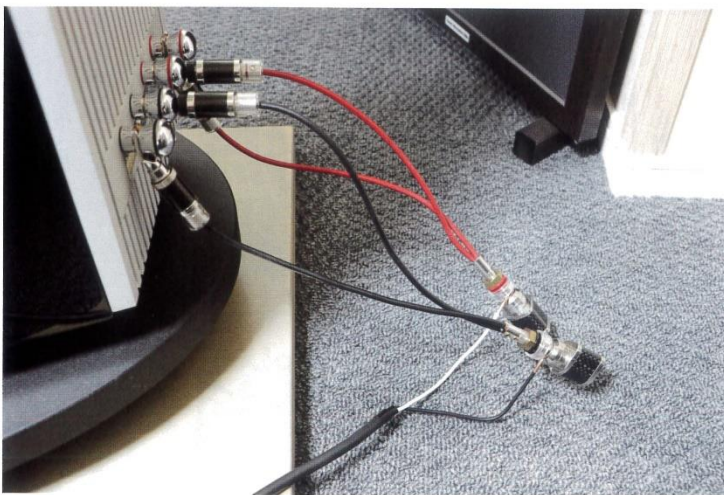
福田屋のB&W800D3の接続では常用している。使っているのはアクセサリーメーカーの試作品で、製品としては構造的に製造が困難であるという。シングルワイヤードを2本の接続ケーブルに分配する部分に、なかなか適当なパーツがない。

自作したバイワイヤリング・セパレーターの内容を紹介

今回自作した試作品の内容は、ケーブルはクリプトンのSC・HR1500を25cm×8本使う。解像度が高く、芯線構成もたいへん使いやすい。スピーカー端子側に使うYラグとバナプラグは、フルテックのCF・201(R)とCF・202(R)を使うことにした。課題は、1本のワイヤードを2本に分配するパーツである。今回この部分には、フルテックの最高級スピーカーターミナルFT・818(R)を使用した。使用するパーツにはロスがあつてはならない。

そうして試作完成したが、写真のものである。端末端子はYラグかバナプラグに揃えた方が良さそうだ。試聴すると、これでもまだ甘さが感じられる。音質はオーソドックスで普通であればOKであるが、解像度の鮮鋭さがもつ

とほしい。24時間経過すると、金属結合によってクオリティは高まるが、今回はまだ十分に納得がいかなかった。そこで、さらに再検討を続けることにした。それにしても、このようなアクセサリー製品があればぜひとも欲しい。例えば10万円近い高級ジャンパーケーブルを発売しても、問題の本質は改善されないからだ。



B&W800D3に接続をして音を確認。写真はアコースティック・リヴァイブの単線ケーブルKT-2.2 Triple Cを接続しているところ



バイワイヤリング・セパレーターの自作の難点は、2本の線が入るターミナルが少ないこと。今回はフルテックのFT-818(R)を使用した